

鹿 児 島 県

海岸漂着物対策推進地域計画

平成24年3月

(令和4年3月改定)

鹿 児 島 県

目 次

1	はじめに	1
2	地域計画に係る基本的事項	2
	(1) 目的	2
	(2) 地域計画の構成	2
	(3) 計画期間	2
	(4) 対象とする海岸漂着物等	2
3	本県の海岸の特徴	3
	(1) 自然環境	5
	(2) 社会環境	19
4	海岸漂着物等の現状及び海岸漂着物対策に係る課題	26
	(1) 海岸漂着物等の現状	26
	(2) 海岸漂着物対策に係る課題	51
5	海岸漂着物対策を重点的に推進する区域及びその内容	53
	(1) 海岸漂着物対策の重点区域	53
	(2) 海岸漂着物等の処理に関する事項	66
	(3) 海岸漂着物等の発生抑制に関する事項	70
	(4) 普及啓発又は環境教育に関する方策	72
	(5) 海洋プラスチックごみ対策	73
6	関係者の役割分担及び相互協力に関する事項	75
	(1) 関係者の役割分担に関する事項	75
	(2) 関係者の連携・協働に関する事項	77
	(3) 流域圏を含んだ広域的な発生抑制対策に係る連携・相互協力	78
7	海岸漂着物対策の実施に当たって配慮すべき事項	
	その他海岸漂着物対策の推進に関し必要な事項	79
	(1) 海岸漂着物等のモニタリング	79
	(2) 災害等の緊急時における対応	79
	(3) 回収・処理困難物	80
	(4) 漂流ごみ等の処理	81
	(5) 他の計画等との整合等	81
	(6) 地域住民、民間団体等の参画と情報提供	82
	(7) 地域計画の変更	82

1 はじめに

本県は、背後に霧島連山を擁し、周囲を太平洋と東シナ海に囲まれ、南海上には薩南諸島を有する。県土は南北約600kmにわたり、その海岸線延長は約2,666kmにおよぶ。飛び石のように連なる島々は黒潮の流れの中にあり、本県は、日本本土において黒潮の最上流にあたる。

島国である我が国は海から多大なる恩恵を受けている。その中でも本県は海に囲まれ、海との関わりが深い地域である。古には海の方こう、はるか大陸から鉄砲やキリスト教が伝来し、沿岸に流れる黒潮や鹿児島内湾の深海、八代海の干潟は、豊かな漁場を与え、世界自然遺産の屋久島や薩南諸島のサンゴ礁など、私たちは海から自然・文化・観光・産業などの様々な面において、多くの恩恵を得ている。

この海岸に、近年、国内や周辺の国からのごみが大量に漂着し、生態系を含む海岸の環境の悪化、白砂青松に代表される美しい浜辺の喪失、海岸機能の低下、漁業への影響等の被害が生じている。

海岸漂着物等については、これまでも国や地方公共団体、地域住民、非営利組織その他の民間団体等によって様々な取組が行われてきた。しかし、なお処理し切れない海岸漂着物等が各地の海岸に流れ着いており、依然として海岸を有する地域において深刻な問題となっている。

こうした問題に対し、海岸漂着物等の総合的かつ効果的な処理を推進するため、平成21年7月に「美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律」が制定され、この法律に基づき、本県が今後講ずべき海岸漂着物対策の内容を明らかにした、鹿児島県海岸漂着物対策推進地域計画を平成24年3月に策定した。

しかし、近年では、海洋に流出する廃プラスチック類やマイクロプラスチックが生態系に与える影響等について、国際的な関心が高まり、世界全体で取り組まなければならない地球規模の課題となっている。

国際社会の動向としては、平成27年（2015年）9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において、「2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減すること」が持続可能な開発目標(SDGs)のターゲットの一つとして掲げられている。

一方、国では、平成21年7月に制定した法律の名称及び内容について、漂流ごみ等の円滑な処理やマイクロプラスチック対策等を盛り込んだ改正を平成30年6月に行った。また、令和元年5月に、同法に基づく「基本方針」も変更された。

本計画は、平成24年3月に策定した計画の期間が令和3年度で終了することから、今回、国際社会の動向や国の法改正に伴う基本方針の変更等を受け、海岸漂着物の現状や新たな対策等を盛り込んだ見直しを行い、関係者の適切な役割分担と幅広い連携・協力の下で、更なる海岸の良好な景観及び環境並びに海洋環境の保全を図っていく必要がある。



2 地域計画に係る基本的事項

(1) 目的

鹿児島県海岸漂着物対策推進地域計画（以下「地域計画」という。）は、「美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境並びに海洋環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律」（以下「海岸漂着物処理推進法」という。）第14条第1項に基づき作成するものであり、海岸漂着物対策を重点的に推進する区域の指定、地域の特性を踏まえた海岸漂着物等の回収・処理方法、発生抑制対策、関係者の役割分担等を定め、海岸漂着物対策を総合的かつ効果的に推進することで海岸の良好な景観、多様な生物の確保、生活衛生の向上、水産資源の保全等の総合的な海岸環境及び海洋環境の保全を図ることを目的とする。

(2) 地域計画の構成

地域計画の構成は次のとおりとする。

- ア 本県の海岸の特徴
- イ 海岸漂着物等の現状及び海岸漂着物対策に係る課題
- ウ 海岸漂着物対策を重点的に推進する区域及びその内容
- エ 関係者の役割分担及び相互協力に関する事項
- オ 海岸漂着物対策の実施に当たって配慮すべき事項その他海岸漂着物対策の推進に関し必要な事項

(3) 計画期間

計画期間は令和4年度から令和13年度までの10年間とする。ただし、地域計画及び重点区域は必要に応じて見直しを行うものとする。

(4) 対象とする海岸漂着物等

地域計画の対象とするものは、海岸漂着物等とする（海岸漂着物処理推進法第2条第3項参照）。

海岸漂着物等とは、海岸に漂着あるいは散乱しているごみその他の汚物又は不要物並びに漂流ごみ等を指し、プラスチック類、発泡スチロール類、金属類、及びガラス・陶磁器類等の人工物の他に流木、灌木、動物の死骸等の自然物を含む。

3 本県の海岸の特徴

本県は、日本本土の西南、九州の最南端に位置し、北西側は熊本県、北東側は宮崎県に接し、南側は与論島の南海上23kmを隔てて沖縄本島の辺戸岬と対する（図 3-1 参照）。本県の広がり、東西約270km、南北約600km、総面積9,188 k m²、九州本土に属する薩摩、大隅の二大半島及び長島、甌島、草垣島、宇治群島並びに南西に延びる種子島、屋久島、トカラ列島、奄美群島等の薩南諸島に属する離島からなる。

本県には、43の市町村（19市、20町、4村）があり、2市2町（伊佐市、曾於市、さつま町、湧水町）を除いて海岸を有する。海岸線延長は北海道、長崎県について全国第3位で延長約2,666kmにおよぶ。この内、本土の海岸線の長さは約1,000kmであり、残りは離島の海岸線が占める（図 3-2 参照）。

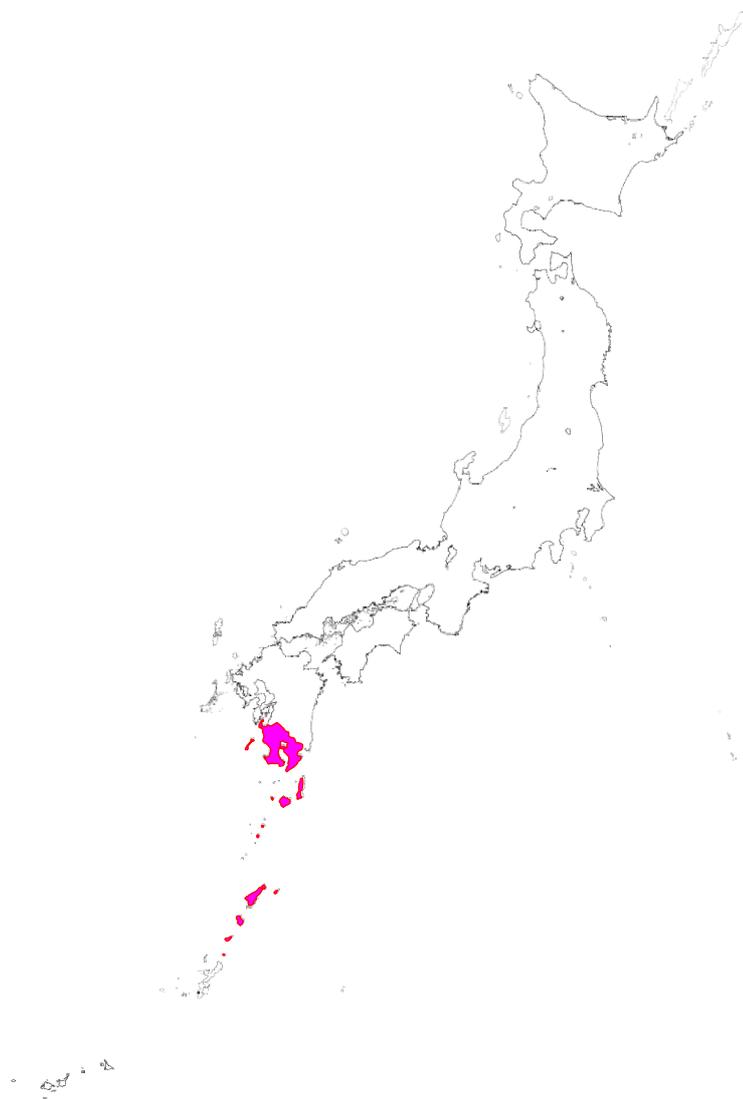


図 3-1 鹿児島県の位置



图 3-2 鹿児島県 行政界地図

(1) 自然環境

ア. 気象及び海象

海岸漂着物等は、陸域から風や降雨により、河川を通じてあるいは直接海へ流出し、風や海流、潮流によって海岸へ漂着する。このため、地域における気象や海象を把握することは海岸漂着物等の漂流現象を推測する上での手がかりとなる。

本県の気候は、黒潮及びその分流の対馬暖流の影響を受けており、一般に温暖多雨で、陽光に恵まれた温帯から亜熱帯性気候帯に属する。また、海岸地帯と内陸の山間部、北限と南限では、気候が異なる（図 3-3 参照）。

降水量は、本土では年間2,000～3,000mmで、特に霧島南麓、大隅半島南東部は多雨域に属する。

離島における降水量は、種子島で2,500mm前後、屋久島で4,500mm、トカラ列島・奄美群島で1,700～3,500mmである。一方、屋久島の山岳地帯では、年間8,000～10,000mmを記録することもある。雨は梅雨時期から夏にかけて多く、この時期における降雨で年間降水量の約50%を占める。

また、夏から秋にかけての雨は、台風、熱雷に伴う一時的な豪雨が多く、梅雨期の豪雨とともに多くの災害の原因となっている。

なお、風向は、地形等の影響を受け各地域で様々であるが、特に冬季は北～北西の季節風が強くなる傾向にある（図 3-4 参照）。

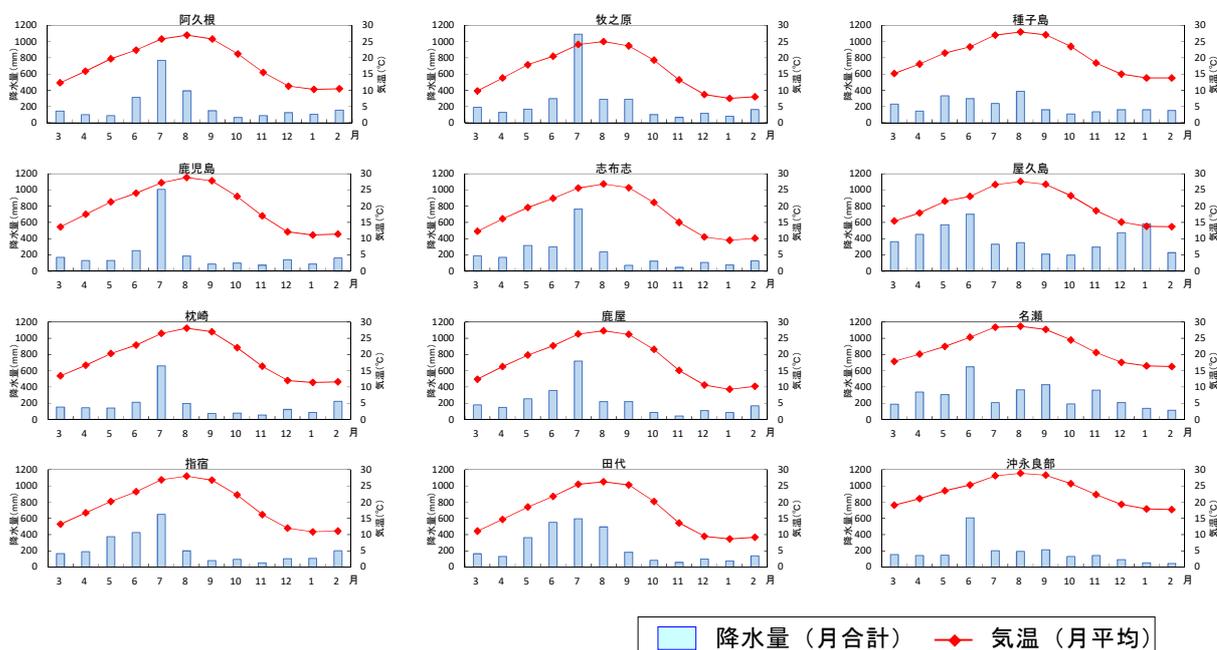


図 3-3 鹿児島県各地の降雨量と気温

資料：気象庁 気象統計情報（平成31年3月～令和2年2月の1日ごとの値を集計）

本県は「黒潮」の流域にある。黒潮の流路は台湾と石垣島の間を北上し東シナ海の大陸棚斜面上に沿って流れている。さらに、トカラ列島を過ぎたところで屋久島―種子島の南側を迂回するように大きく回り込みながら太平洋側へ抜けていく。その後、九州の東部を四国方向へ向かって流れている（図 3-5 参照）。

また、奄美大島の北西海上で黒潮の一部が分かれ北上し、東シナ海の海水と混ざりあいながら対馬方向へ流れ、やがては日本海を北上する対馬海流になる（図 3-6 参照）。

一方、黒潮の前線波動が、九州西方沖で破碎すると、波の峯が舌状に伸びた黒潮暖水舌を形成し、この暖水舌が鹿児島湾口付近を通過する際は、その一部が湾内に流入する（図 3-7 参照）。

本県を抜けて太平洋側を北上した黒潮は、房総半島の東で日本を離れ黒潮続流してハワイの北を通ってアメリカのカリフォルニア沿岸に達し、南下した後ハワイの南を通り北半球を循環している（図 3-8 参照）。

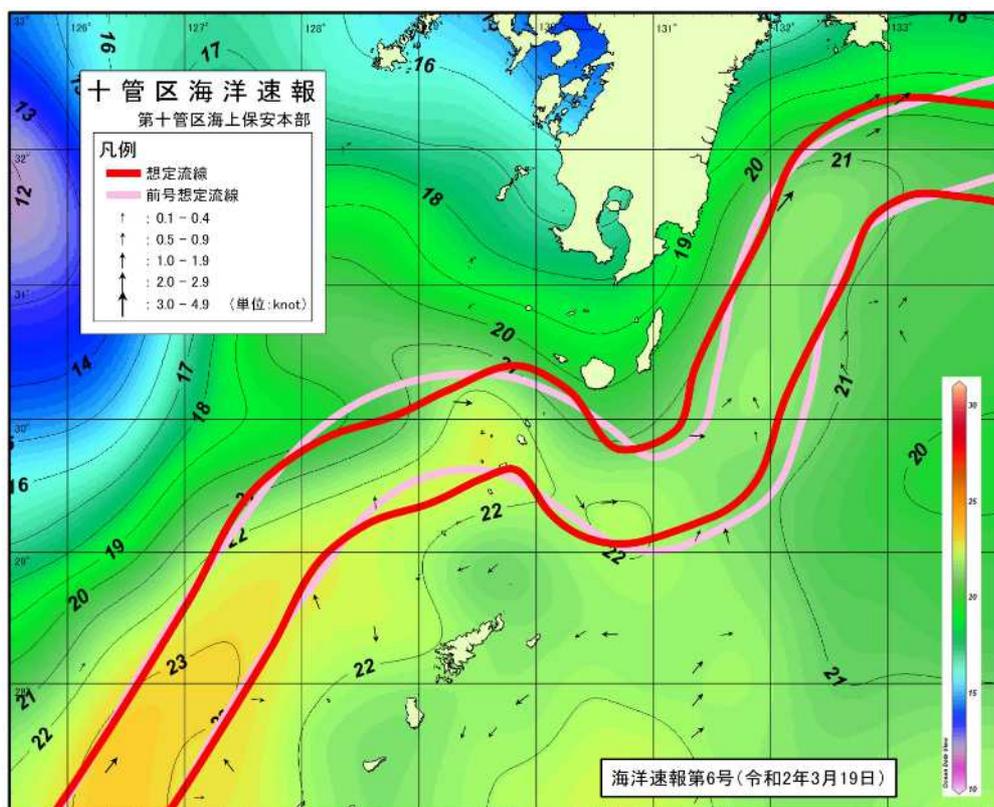


図 3-5 鹿児島周辺の海水の流れ

出典：第十管区海洋速報



図 3-6 日本近海の海流（模式図）

出典：海上保安庁ホームページ

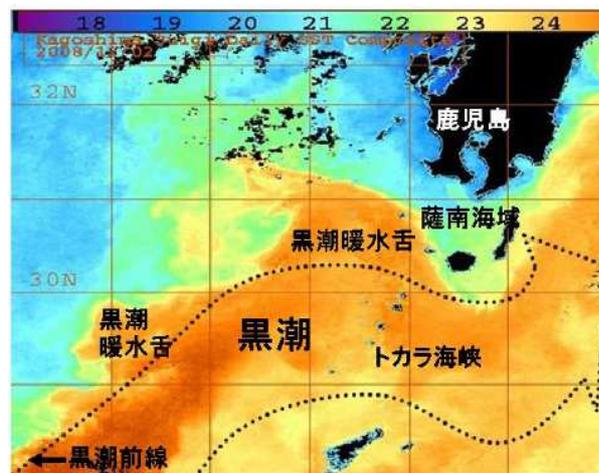


図 3-7 黒潮暖水舌の衛星画像

出典：「土木学会論文集B3（海洋開発）特集号Vol. 67, No. 2」

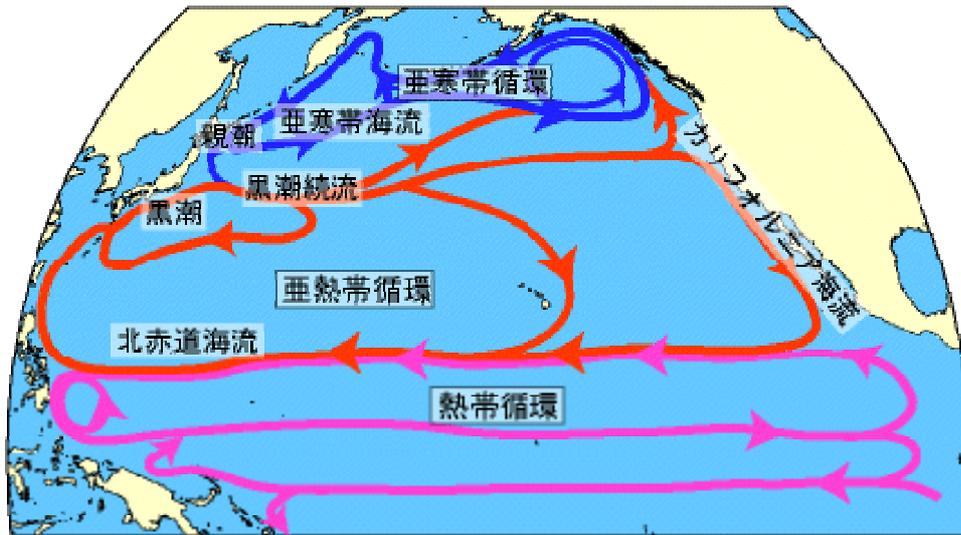


図 3-8 海洋表層の循環の模式図

出典：気象庁ホームページ（北半球冬季における循環を模式化）

イ. 海岸の地形的特徴

本県の地形は、火山噴火物の堆積からなるシラス台地、丘陵地が大規模に広がり、そのなかに小河川と小平野が点在するのが特徴である。

そのため、川内川流域に見られる比較的広い平野部やその他河川河口部を除いて平地が少ない。

本土より西南に延びる島々は、火山あるいは隆起によって生じたもので、種子島、奄美群島中の喜界島、沖永良部島、与論島の低平な島を除いては、海面からそびえたつ山体で構成される。

海岸線は、大隅半島の太平洋側、薩摩半島の東シナ海側、両半島に挟まれた鹿児島湾内、火山島や隆起サンゴ礁島を含む離島の海岸ごとに特徴ある姿を有している。

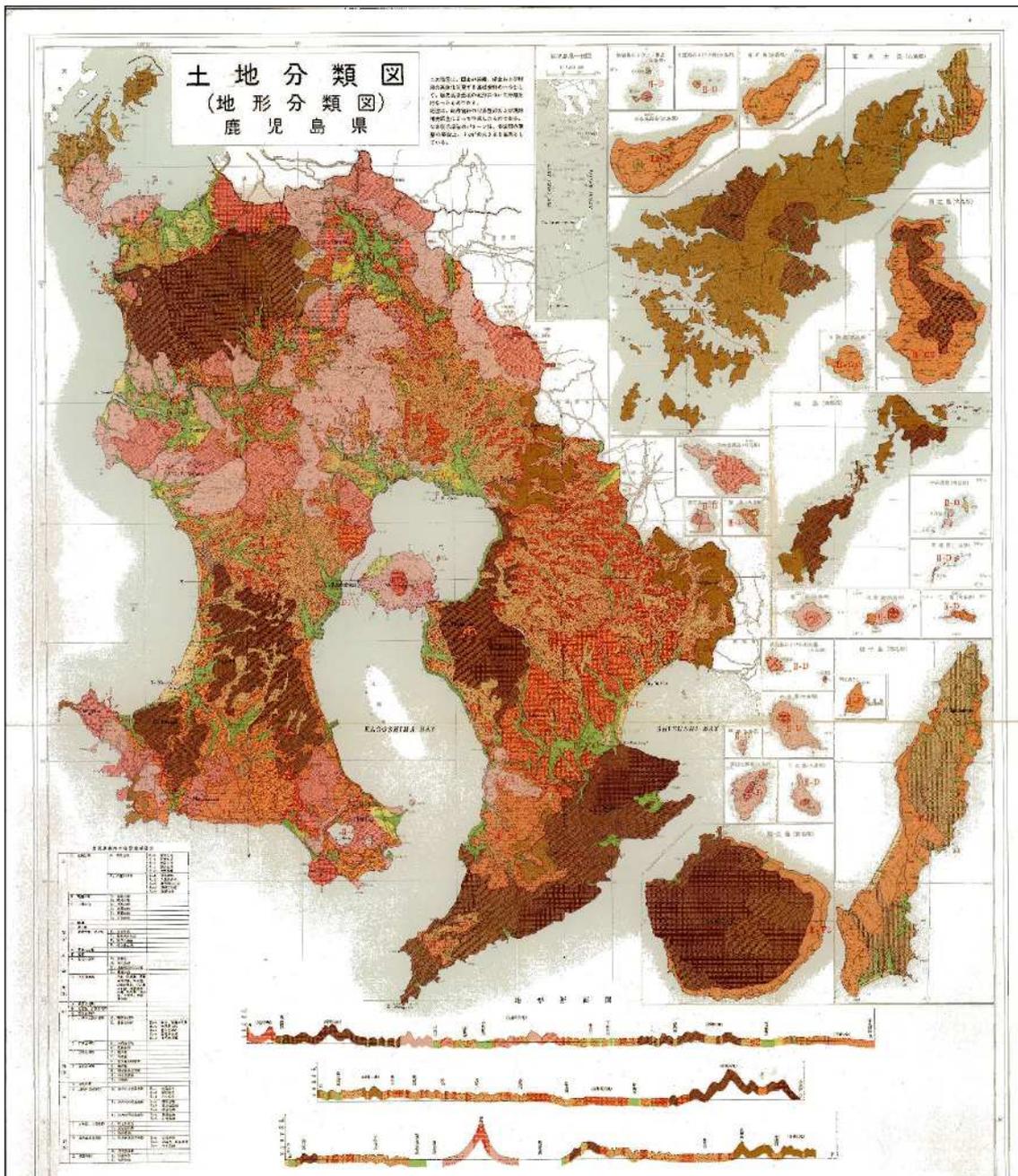
この海岸線には、湾奥の重富海岸に代表されるような干潟海岸、甕島の汽水湖海浜、屋久島や奄美大島などのマングローブ海浜、十島村以南のサンゴ礁海浜、日本三大砂丘の吹上浜海岸、志布志湾の柏原海岸、種子島の長浜海岸、屋久島永田海岸等を含む多様な自然海岸がある（図 3-9 参照）。

ウ. 流入河川の状況

県内を流れる河川のうち一級河川は熊本県白髪岳を水源とし東シナ海に注ぐ川内川、大隅半島の高隈山系に水源を發し太平洋に注ぐ肝属川及び大隅半島北部の金御岳に水源を發し都城市・宮崎市を経て太平洋に注ぐ大淀川の3水系153河川がある。

また、二級河川は霧島山系に水源を發し鹿児島湾に注ぐ天降川、薩摩半島南西部を流れる万之瀬川、大隅中央部のシラス台地を貫流する菱田川など160水系310河川と数多く、流路延長は一級及び二級河川合わせて2,658.5kmとなる（図 3-10 参照）。

このほか市町村が管理する準用河川が1,281河川、延長1,672kmが存在する。



凡 例		(付加記号)	
	: 大起伏山地		: 被覆砂丘
	: 中起伏山地		: 砂質裸地
	: 小起伏山地		: 溶岩原
	: 山麓地		: 溶岩台地
	: 大起火山地		: 石灰岩台地
	: 中起火山地		: 干拓・埋立地
	: 小起火山地		: シラス分布地域
	: 火山山麓地		: 溶結凝灰岩分布地域
	: 大起伏丘陵地		
	: 小起伏丘陵地		
	: 火山砂礫台地〔シラス台地〕(上位)		
	: 火山砂礫台地〔シラス台地〕(中位)		
	: 岩石台地		
	: 砂礫台地(下位)……河岸段丘, 海岸段丘		
	: 扇状地性低地		
	: 三角洲性低地……沖積平野		
	: 自然堤防・砂洲		

図 3-9 地形分類図

出典：経済企画庁総合開発局（昭和46年3月発行）

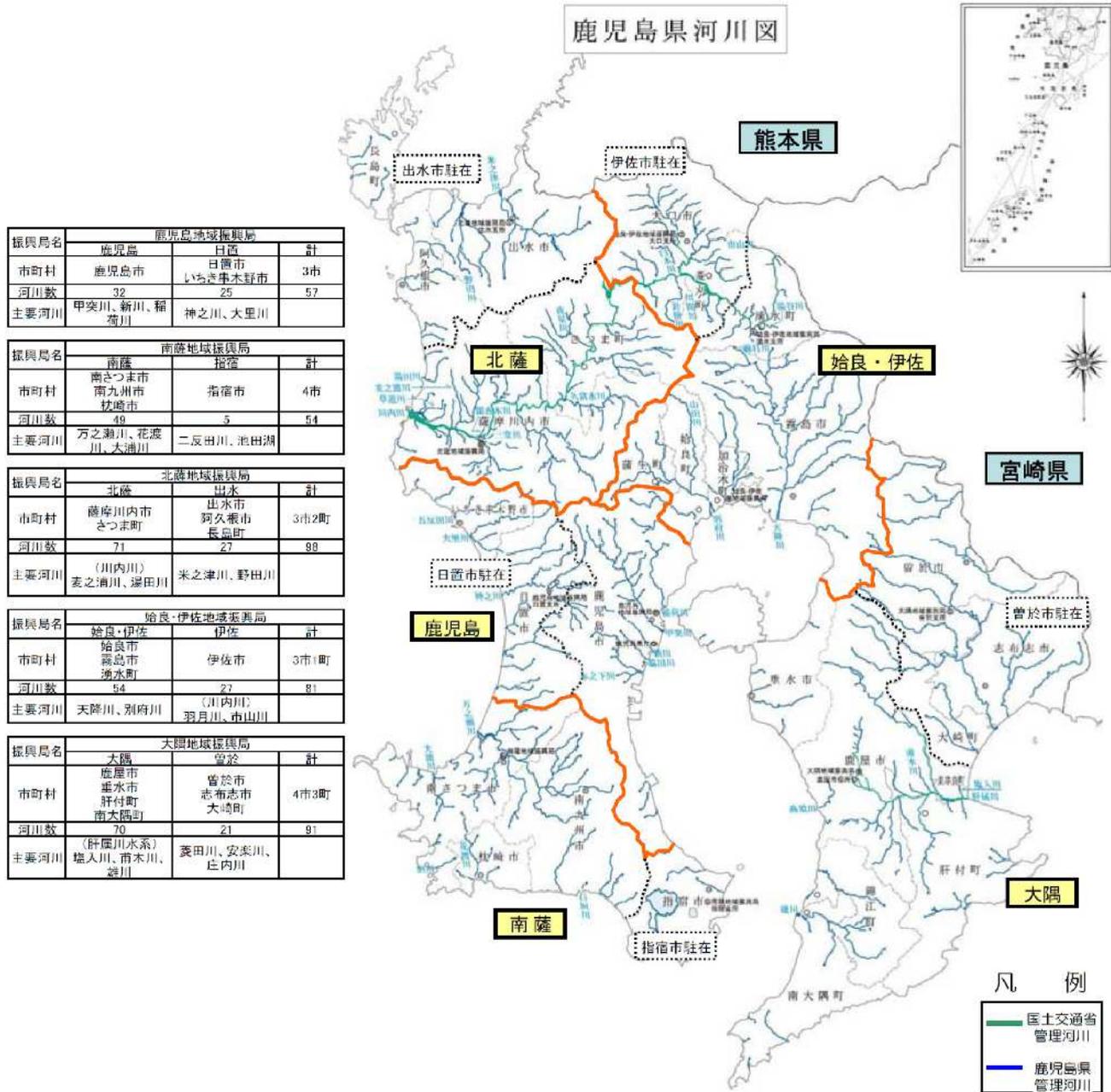


図 3-10 主な河川

出典：鹿児島県河川課資料

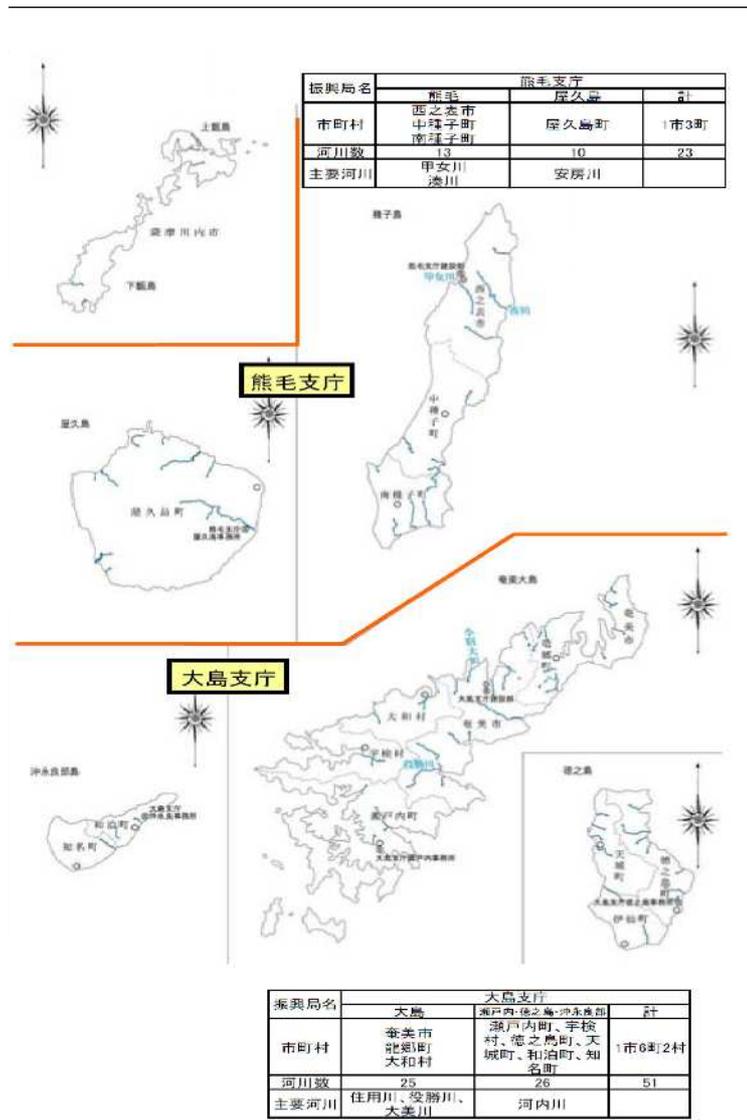


図 3-11 主な河川

出典：鹿児島県河川課資料

指定	名称	流域及び流末地	延長(km)
一級河川	川内川	伊佐市、湧水町、さつま町、薩摩川内市	137
一級河川	肝属川	鹿屋市、東串良町、肝付町	34
二級河川	菱田川	霧島市、曾於市、志布志市、大崎町	50
二級河川	天降川	霧島市	41
二級河川	万之瀬川	鹿児島市、南九州市、南さつま市	42
二級河川	安楽川	曾於市、志布志市	37
二級河川	神之川	鹿児島市、日置市	28
二級河川	甲突川	鹿児島市	26
二級河川	米之津川	出水市	25
二級河川	雄川	錦江町、南大隅町	25
二級河川	別府川	始良市	27

出典：鹿児島県河川課資料

エ. 海岸の景観（自然公園等）

本県においては、優れた自然の風景地を保護するとともに生物の多様性の確保に寄与し、その快適な利用の推進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資することを目的とした自然公園が14箇所指定されている。このうち海岸を含むものは11箇所である（表 3-1 参照）。さらに自然公園内には海域の景観を維持するため海域公園が指定されている箇所もある（表 3-2 参照）。

とりわけ屋久島は、世界的に特異な樹齢数千年の屋久杉をはじめ、多くの固有種や絶滅の恐れのある動植物などを含む生物相を有するとともに、海岸部から亜高山帯に及ぶ植生の典型的な垂直分布が見られるなど特異な生態系とすぐれた自然景観を有しており、平成5年12月白神山地(青森県・秋田県)とともに日本で初めて世界自然遺産に登録された。また、平成17年11月には永田浜（前浜，いなか浜，四ッ瀬浜の総称）がアカウミガメの貴重な産卵地としてラムサール条約登録湿地になった。

表 3-1 鹿児島県内の自然公園（海岸が含まれるもの）

名称	指定日	市町村
霧島錦江湾国立公園	昭和9年3月16日 (昭和39年3月16日追加) (平成24年3月16日分離)	霧島市, 湧水町, 鹿児島市, 垂水市, 指宿市, 始良市, 南大隅町,
屋久島国立公園	平成24年3月16日	屋久島町
雲仙天草国立公園	昭和31年7月20日編入	長島町
日南海岸国定公園	昭和30年6月1日	志布志市, 大崎町, 東串良町, 肝付町
奄美群島国立公園	平成29年3月7日	奄美市, 龍郷町, 大和村, 宇 検村, 瀬戸内町, 喜界町, 徳 之島町, 天城町, 伊仙町, 和 泊町, 知名町, 与論町
阿久根県立自然公園	昭和28年3月31日	阿久根市
吹上浜金峰山県立自然公園	昭和28年3月31日	南さつま市, 日置市, いちき串 木野市
坊野間県立自然公園	昭和28年3月31日	枕崎市, 南さつま市
大隅南部県立自然公園	昭和52年6月1日	肝付町, 南大隅町, 錦江町
甑島国定公園	平成27年3月16日	薩摩川内市
トカラ列島県立自然公園	平成4年4月1日	十島村
薩南海岸県立自然公園	令和3年4月16日	枕崎市, 指宿市, 南九州市

出典：鹿児島県ホームページよりとりまとめ

表 3-2 鹿児島県内の海域公園

名称	地区名	指定日
霧島錦江湾国立公園	佐多岬	昭和 45 年 7 月 1 日
	桜島	昭和 45 年 7 月 1 日
	神瀬	平成 24 年 3 月 16 日
	神造島	平成 24 年 3 月 16 日
	若尊鼻	平成 24 年 3 月 16 日
	若尊海山	平成 24 年 3 月 16 日
	重富干潟	平成 24 年 3 月 16 日
屋久島国立公園	栗生	平成 24 年 3 月 16 日
	メガ崎	平成 24 年 3 月 16 日
奄美群島国立公園	笠利半島東海岸	平成 29 年 3 月 7 日
	摺子崎	平成 29 年 3 月 7 日
	大島海峡	平成 29 年 3 月 7 日
	与論島礁湖	平成 29 年 3 月 7 日
	与論海岸	平成 29 年 3 月 7 日

出典：鹿児島県，環境省ホームページよりとりまとめ

本県の景観は，火山性の海岸が多くみられることが特徴としてあげられる。桜島は，鹿児島県のシンボルとして鹿児島湾に浮かぶ秀麗かつ勇壮な容姿をみせ，指宿の開聞岳や根占の断崖地帯，本土最南端の佐多岬が主な景観地となっている。

本土西側では，熊本県との県境にあたる天草諸島から連なる長島，獅子島などの多島海景観や沈降海岸地形独特な地形景観を呈し，阿久根市側の海岸線は緩やかな丘陵が波状に連なる展望と相対し，阿久根大島では複雑な海岸線の出入りや奇岩・岩礁の景観がみられる。

薩摩半島まで南下すると吹上浜があり約47kmに及ぶ弧状の砂丘海岸地帯が砂丘美と広大な景観を呈している。南さつま市の小浦から野間岬，坊津を巡り枕崎市の立神に至る海岸線は大小無数の小島や岩礁が見られ，屈曲の多い樹枝状の入江をもつリアス海岸ならではの景観が展開する。

なお，野間半島は，もともと離れ島だったが海岸砂丘砂が堆積してトンボロを形成し，本土と陸続きになった陸繋島である。

本土東側には，宮崎県から志布志湾に面する長大な砂丘海岸地帯があり，白砂青松の美しい景観を呈している。

大隅半島の南大隅町外之浦から肝付町火崎に至る太平洋に面した海岸は砂岩・頁岩の水成岩海岸と花崗岩海岸からなり，屈曲が著しく微ケスタ状波食岩や小海食洞，天然橋が見られる。

本土西側沖の甑島列島では，上甑島の西海岸海食崖や鹿島断崖及び瀬々野浦断崖が荒々しくそそり立ち，豪壮な海食崖が連なる景観を呈している。

種子島は，高い山がなく殆ど平らな島であり，中種子町西の東シナ海に面する長浜海岸は，南北約12kmに及ぶ種子島最大の砂丘地帯である。このほか，瀬や石

屋のある海岸や砂浜が点在する。

また、大浦川河口にはマングローブ林が広がっており環境省の日本の重要湿地500に選ばれている。

トカラ列島では、各島間の自然景観上の相違も著しく火山、海食崖、サンゴ礁といった島の特徴がみられる。

奄美群島の喜界島は、4段の海成段丘という地形的特色をもち、徳之島のカルスト地形や沖永良部島の鍾乳洞群、与論島のサンゴ砂からなる大金久海岸など美しい海岸景観を呈している。

また、奄美大島は、北部地域のあやまる岬などではサンゴ礁地形が見られ、南部の大島海峡は、複雑に入り組んだリアス式の海岸地形と穏やかな海面が美しい景観を展開している。

オ. 海岸の生態系

本県は、多様な気候と地理的な特徴を背景に豊かな自然に生まれ、多種多様な生物が分布しており、植物約3,100種類、鳥類約380種類、哺乳類約50種類が生息又は生育している。

これらの生物の中には、南限種、北限種、固有種など学術的に価値の高い種が多い。その理由としては、地形的に九州の南端に位置し、南西諸島をはじめ島嶼が多いこと、気候的に亜熱帯から温帯への移行地帯であることや、地殻変動により大陸との断続を繰り返したという南西諸島の地史的経緯などによるものと考えられる。

表 3-3 貴重な生物（一部）

区分	名称	生息地
国指定特別天然記念物	喜入のリュウキュウコウガイ産地	鹿児島市喜入生見町
国指定天然記念物	オカヤドカリ	地域を定めず指定(県本土南端部, 南西諸島)
	万之瀬川河口域のハマボウ群落及び干潟生物群集	南さつま市
	大和浜のオキナワウラジロガシ林	大島郡大和村大和浜
県指定天然記念物	ハマジンチョウ	阿久根市波留ほか
県レッドデータブック (絶滅危惧種一部抜粋)	ハマジンチョウ群落	阿久根市湯のツルヨシ湿原 奄美市住用村内海
	オヒルギ群落	奄美大島住用川河口部, 奄美大島住用川汽水域
	サガリバナ群落	奄美市住用町, 笠利町
	サキシマスオウノキ群落	奄美市住用町
	リュウキュウアユ	奄美大島(川内川, 役勝川, 河内川など)
	タイマイ, アカウミガメ, アオウミガメ	—

出典：鹿児島県ホームページよりとりまとめ

また、鹿児島県は世界的にみても重要なウミガメの上陸・産卵地である。ウミガメは春から夏にかけて県内各地の海岸に延べ2,000～5,000頭前後（日本1位）が産卵のため上陸する（表 3-4 参照）。ウミガメ保護のため、県では全国的にも例が少ない保護条例を制定し、捕獲を禁止するとともにウミガメの上陸数調査等の実施や監視員の配置などその保護に努めている。

表 3-4 ウミガメの上陸状況

区分	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R元年度	R2年度
上陸確認市町村数	33	33	33	32	31	31
上陸確認頭数	3,511	4,741	5,179	2,731	2,161	3,640

出典：鹿児島県ホームページよりとりまとめ

平成20年(2008年)に産卵が確認された主な海岸と産卵回数については図 3-12に示すとおりである。本県の海岸で多くのアカウミガメの産卵が確認されていることがわかる。

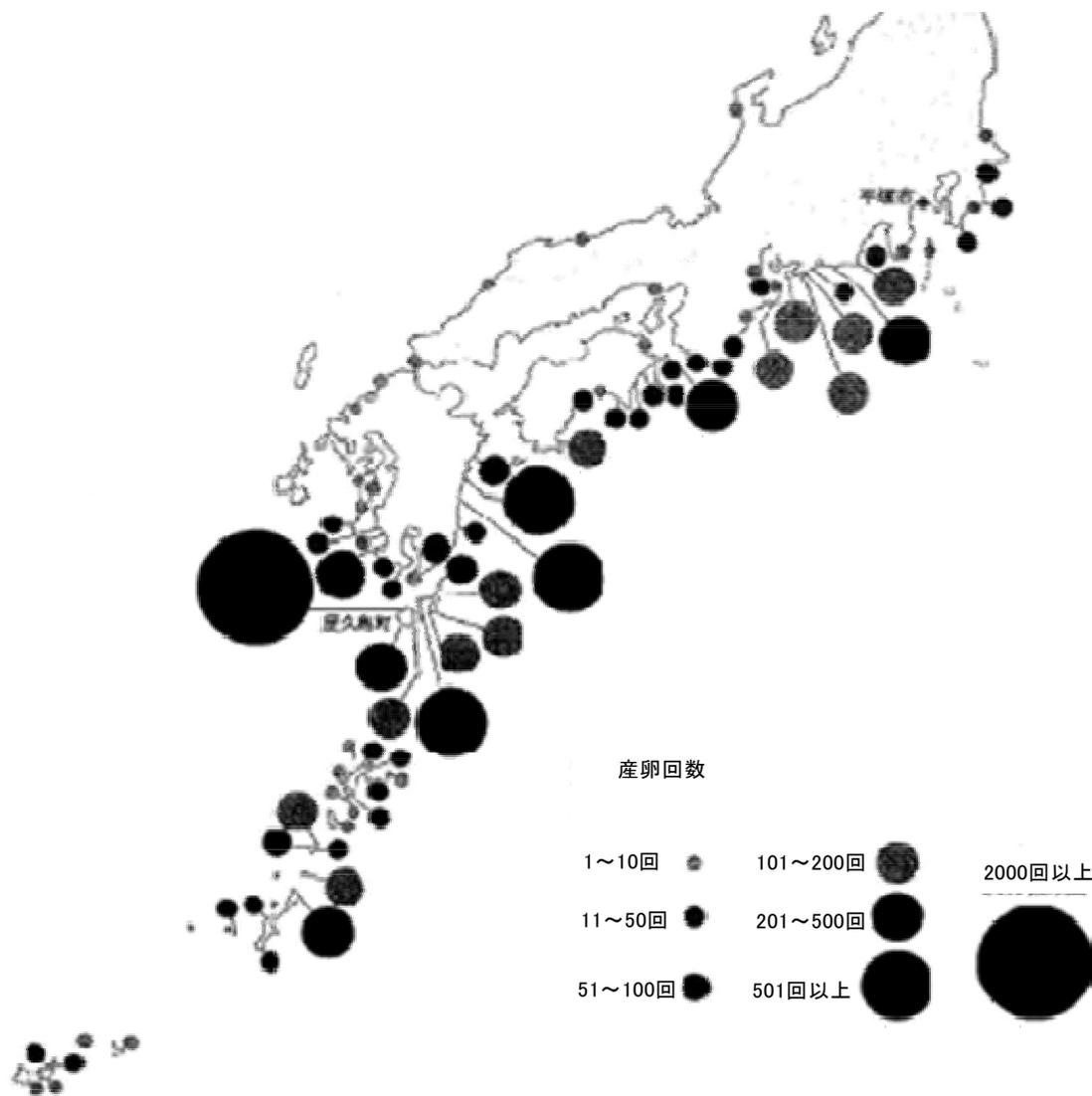


図 3-12 アカウミガメの産卵分布図(2008年)

出典：日本ウミガメ協議会(データ及び地図製作)，ナショナルジオグラフィック日本版
第15巻第2号(2009年)

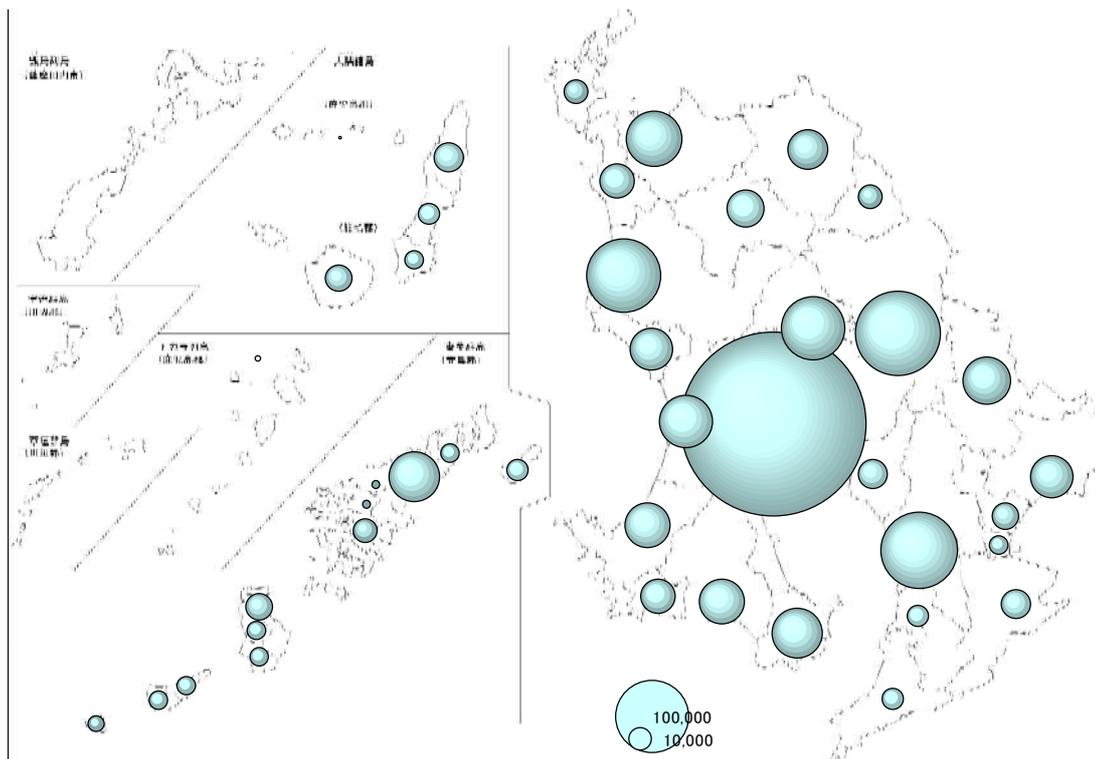
(2) 社会環境

ア. 人口

本県の総人口は、1,589,416人、世帯数730,063世帯である（鹿児島県 令和2年10月報（令和2年10月1日現在））。本県の各市町村の人口分布を図3-13に示す。

本県の人口は、鹿児島市に集中して多く、離島で最も人口が多いのは、奄美市で41,211人である。また、離島の人口は本土と比較して少ない。

図 3-13 市町村別人口の分布



市町村	人口	市町村	人口	市町村	人口
鹿児島市	597,101	奄美市	41,211	南種子町	5,406
鹿屋市	101,587	南九州市	33,754	屋久島町	12,007
枕崎市	20,376	伊佐市	24,535	大和村	1,379
阿久根市	19,286	始良市	77,058	宇検村	1,627
出水市	52,653	三島村	409	瀬戸内町	8,545
指宿市	39,091	十島村	754	龍郷町	5,797
西之表市	14,804	さつま町	20,676	喜界町	6,658
垂水市	14,083	長島町	9,776	徳之島町	10,230
薩摩川内市	92,600	湧水町	9,392	天城町	5,511
日置市	47,249	大崎町	12,434	伊仙町	5,998
曾於市	33,492	東串良町	6,264	和泊町	6,342
霧島市	124,564	錦江町	6,953	知名町	5,756
いちき串木野市	27,467	南大隅町	6,418	与論町	5,030
南さつま市	33,091	肝付町	14,357		
志布志市	29,822	中種子町	7,576		

出典：鹿児島県ホームページ（毎月人口推計：令和2年10月1日現在）

イ. 水産物資源

本県の海域には、黒潮が流れており分流が対馬暖流となって北上している。このため、県内の至る所に好漁場があり（図 3-1 4 漁場概要図参照），回遊魚や瀬魚、底魚など様々な海の幸に恵まれている。

鹿児島県の漁民は、「黒潮の民」として真っ先に漁船を乗り入れ、特にカツオ漁業は、幕末の頃から日本で一番先進的であったと伝えられている。（出典：鹿児島県 水産技術開発センター）

本県の主な水産物の水揚げ量は、表 3-5 のとおりである。また、海面漁業の他に湾や入り江ではぶりなどの養殖が盛んに行われている。

表 3-5 主な水産物（令和元年）

〔海面漁業魚別漁獲量〕

魚種名	全国生産量	1位	2位	3位	4位	5位	全国シェア(%)
みなみまぐろ	5,969t	鹿児島	静岡	宮城	岩手	神奈川	29.9
		1,785	1,463	1,223	718	294	
めばち	33,740t	宮城	高知	鹿児島	静岡	神奈川	9.9
		5,963	3,917	3,336	3,321	3,319	
かじき類	10,874t	宮城	高知	宮崎	鹿児島	神奈川	7.2
		2,924	1,269	1,138	779	753	
うるめいわし	60,622t	島根	宮崎	長崎	高知	鹿児島	6.7
		14,933	13,342	10,716	5,313	4,035	
むろあじ類	16,792t	宮崎	長崎	鹿児島	高知	和歌山	16.8
		6,107	3,120	2,813	1,189	1,083	

〔海面・内水面養殖魚種別収穫量〕

魚種名	全国生産量	1位	2位	3位	4位	5位	全国シェア(%)
ぶり	104,055t	鹿児島	大分	愛媛	宮崎	高知	25.6
		26,654	17,766	16,508	9,638	8,329	
かんぱち	28,494t	鹿児島	愛媛	宮崎	大分	香川	53.0
		15,096	3,965	1,958	1,946	1,903	
くろまぐろ	19,584t	長崎	鹿児島	高知	三重	大分	17.2
		7,188	3,362	2,017	1,390	1,282	
ひらめ	2,006	大分	鹿児島	愛媛	長崎	宮崎	22.2
		642	445	304	130	83	
くるまえび	1,458t	沖縄	鹿児島	熊本	山口	長崎	21.1
		485	308	259	96	92	
うなぎ	17,071t	鹿児島	愛知	宮崎	静岡	高知	41.5
		7,086	4,357	3,070	1,534	296	

出典：令和元年漁業生産統計調査よりとりまとめ

ウ. 漁港・港湾施設

① 漁港施設

全国第3位の長さの海岸線と数多くの離島を抱える本県は、漁港数でも全国第5位であり139港が指定されている（表3-6参照）。

これらの漁港は、整備が進められ水産業の発展に大きく寄与するとともに離島航路の拠点港等としても人々の生活を支えている。

表3-6 指定漁港（令和3年）

第1種漁港(市町村管理漁港:94漁港)				県管理漁港(45漁港)						
管理者名	第1種漁港	管理者名	第1種漁港	所管機関名	第2種漁港	第3種漁港	特 定 第3種漁港	第4種漁港	所在地	
鹿児島市	前之浜	西之表市	安城	鹿児島地域振興局	谷山				鹿児島市	
	生見		葉山		江口				日置市	
	赤水		高坊		羽島				いちき串木野市	
吹上	中山	戸崎								
いちき串木野市	土川	中種子町	梶潟			串木野				
十島村	市来	南種子町	浜田					西之浜	十島村(口之島)	
	城之前		竹崎					前籠	十島村(宝島)	
指宿市	児ヶ水		下西目		南薩地域振興局	今和泉				指宿市
	脇浦		砂坂			川尻				
南さつま市	黒瀬		大川			小湊(万世)				
	脇本		州崎	片浦						
阿久根市	佐潟		志戸子	野間池						
	牛之浜		小瀬田	秋目						
出水市	野口		吉田	久志						南九州市
	桂島		麦生	頼娃						
薩摩川内市	唐浜	屋久島町	原			山川			指宿市	
	寄田		栗生				枕崎		枕崎市	
	里		小宿				坊泊	南さつま市		
	小島	奄美市	小湊(三方)				宇治	南さつま市(宇治群島)		
	芦浜		和瀬	北薩地域振興局	名護				出水市	
	青瀬		喜瀬		平良				薩摩川内市(中瀬)	
	瀬々野浦		崎原		蘭牟田				薩摩川内市(下瀬)	
片野浦	名音	幣串					長島町(獅子島)			
伊唐北	今里	葛輪					長島町			
三船	宇検	茅屋								
長島町	観音	宇検村	芦検			阿久根			阿久根市	
	大島	瀬戸内町	平田		薄井			長島町		
	蔵之元		西古見				中甕	薩摩川内市(上甕)		
	汐見		花天				手打	薩摩川内市(下甕)		
国分	久慈		大隅地域振興局	境				垂水市		
永浜	実久	海潟								
始良市	重富	芝		牛根麓				垂水市・鹿児島市		
垂水市	中浜	諸鈍		伊座敷					南大隅町	
	垂水南	秋徳					内之浦	肝付町		
志布志市	夏井	龍郷町	秋名	熊毛支庁	庄司浦					
大浜	安木屋場		住吉					西之表市		
南大隅町	島泊		龍郷	小野津	屋久島事務所				浦田	
	尾波瀬	喜界町	荒木					熊野	中種子町	
	田尻	徳之島町	山					一湊	屋久島町	
	間泊		亀津					口永良部		
肝付町	辺塚	天城町	松原	大島支庁				大熊	奄美市	
	船間	伊仙町	前泊					宇宿		
西之表市	東風泊	和泊町	内喜名	喜界事務所				古仁屋	瀬戸内町	
	能野	知名町	沖泊					早町	喜界町	
	花里崎	与論町	茶花	沖永良部事務所						
	湊		麦屋					知名	知名町	
沖ヶ浜田										
計		94漁港	計	24	4	1	16	計 45漁港		

出典：鹿児島県ホームページ

② 港湾施設

本県には、重要港湾5港と地方港湾126港（内避難港2港）の131港がある（表3-7参照）。

これらの港湾は、アジア地域をはじめとする各国・地域との国際交流の進展や物流ネットワークの形成とともに、離島・奄美地域との海上交通の安定性、信頼性の確保に重要な役割を果たしている。

表 3-7 所管別・管理者別港一覧

所 管		市町村名	県管理港湾	市町村管理港湾	合計	
鹿児島地域振興局 建設部	鹿児島市	鹿児島港、桜島港、喜入港	3	桜島港	1	
	三島村	硫黄島港	1	竹島港、片泊港、大里港	3	
	十島村	中之島港	1	前之浜港、元浦港、やすら浜港、小室島港、切石港	9	
	いちき串木野市	串木野新港	1	室島港、東之浜港、南之浜港、セツ山港	1	
南薩地域振興局 建設部	指宿市	指宿港、宮ヶ浜港、魚見港	3	瀬崎港	1	
	南さつま市	新川港	1	小浦港、平崎港	2	
	南九州市			松ヶ浦港、西塩屋港、聖ヶ浦港、東塩屋港	4	
北薩地域振興局 建設部	薩摩川内市	川内港、西方港	2			
	薩摩川内市	里港、長浜港	2	桑之浦港、江石港	2	
	出水市	米之津港	1			
	阿久根市	黒之浜港	1	高之口港、大浦港、小津港、八郷港	4	
	長島町	瀬戸港、宮之浦港、片側港、指江港	4	獅子島港、長島港	2	
始良・伊佐地域振興局 建設部	始良市	加治木港	1			
	霧島市	隼人港、福山港	2			
大隅地域振興局 建設部	志布志市	志布志港	1			
	垂水市	垂水港	1	浮津港、三川港	2	
	鹿屋市	鹿屋港、高須港	2			
	肝付町			内之浦辺塚港、大浦港、岸良港	3	
	錦江町	大根占港	1			
	南大隅町	根占港、○大泊港	2	浜尻港	1	
	東串良町、肝付町	波見港	1			
熊毛支庁	建設部	西之表市	西之表港、田之脇港	2	大久保港、大崎港、伊関港、浅川港、王籠港、馬毛島岬港、椎ノ木港、立山港、上ノ古田港	9
		中種子町	浜津脇港	1	屋久津港、増田港、牧川港、大塩屋港	4
	南種子町	島間港	1	広田港、田尻港、門倉港	3	
	屋久島事務所	屋久島町	宮之浦港、上屋久元浦港、安房港、栗生港	4	楠川港、橋川港、湯向港、岩屋泊港、上屋久永田港、尾之間港、小島港、湯泊港、中間港、鯛ノ川港	10
大島支庁	建設部	奄美市	名瀬港	1	知名瀬港、山間港、赤木名港、大笠利港、屋仁港、和野港	6
		大和村			大和港	1
		龍郷町			龍郷港、戸口港、円港、芦徳港	4
	瀬戸内事務所	宇検村			湯湾港、名柄港	2
		瀬戸内町	○古仁屋港	1	加計呂麻港、請島港、与路港、徳川港、管純港	5
	喜界事務所	喜界町	湾港	1	喜界島港	1
		徳之島町	龜徳港	1	母間港	1
	徳之島事務所	天城町	平土野港	1		
		伊仙町			鹿浦港、面纏港	2
	沖永良部事務所	和泊町	和泊港	1	伊延港	1
知名町				住吉港	1	
	与論町	与論港	1	百合ヶ浜港	1	
合 計			46		85	131

出典：鹿児島県ホームページ

エ. 海洋性レクリエーション

本県の海岸は、海水浴、潮干狩り、釣り、マリンスポーツなど様々なレジャーやレクリエーションの場として利用されている（表 3-8 参照）。

また、伝統行事やイベントなども開催され、地域における交流の場として活かされている。

表 3-8 県内各海岸におけるマリンスポーツ等（一例）

所在地	内 容
鹿児島市平川町浜平川	ヨット, クラブハウス, スロープ
枕崎市港町, 西本町, 汐見町	ダイビングツアー, イルカウォッチング, ルアーフィッシング, 磯釣り, 船釣り
阿久根市波留	OPヨット, カヌー, カッター, シュノーケリング, フィッシング, ジェットスキー, カヌー等
阿久根市脇本地区	サーフィン, ボードセーリング, スタンドアップパドルボード(SUP)
鹿屋市花里町赤崩	シーカヌー, ボート, いかだ
鹿屋市高須町	ヨット, ウィンドサーフィン, カヌー, ボート, スタンドアップパドルボード(SUP)等 マリンスポーツ全般
垂水市浜平	カヌー, スタンドアップパドルボード(SUP), ウェイクボード
鹿児島郡十島村宝島	スキューバダイビング
指宿市山川福元	カヌー, ボート
南さつま市笠沙町大当海岸, 片浦	スキューバダイビング, シーカヤック
南さつま市坊津町久志, 坊	OPヨット, カヌー, ローボード, 体験ダイビング
南九州市知覧町南別府	ヨット, カヌー, ボート
日置市東市来町江口浜	サーフィン, ウィンドサーフィン
薩摩川内市里町里港	グラスボート, シーカヤック
薩摩川内市上甕町中甕港	観光遊覧船
薩摩川内市下甕町手打	観光遊覧船, スキューバダイビング
出水郡長島町藏之元港	ヨット, カヌー, カッター, グラスボートによる長島海峡海底探訪(サンゴ, 亜熱帯魚)
肝属郡南大隅町佐多馬籠, 伊座敷	特殊グラスボート, ヨット, カヌー, ボート
西之表市国上, 住吉, 安城平山	スキューバダイビング, サーフィン
西之表市西之表	シーカヤック, シュノーケリング, スキューバダイビング
熊毛郡中種子町野間中山, 野間竹屋野, 竹之川,	サーフィン
熊毛郡中種子町増田犬城	スキューバダイビング
熊毛郡南種子町中之上	スキューバダイビング, サーフィン, シーカヤック, シュノーケリング
屋久島沿岸島内一円, 栗生	屋久島の海, 川を利用した海洋性スポーツ, 海底探訪
奄美市名瀬長浜町	フィッシング全般(宿泊・レストラン)
奄美市名瀬佐大熊町	各種ダイビング, ダイビングスクール, ダイビングツアー
大島郡瀬戸内町一円	半潜水船, グラスボートによるサンゴ礁見学, スキューバダイビング, ジェットスキー, ボードセーリング, マリンジェット, シーカヤック, シュノーケリング, ウェイクボード
奄美市住用町和瀬, 城	ボードセーリング, サーフィン
龍郷町各海岸町内一円	スキューバダイビング, ジェットスキー, 水上スキー, ヨット, ボードセーリング, カヌー等のマリンスポーツ
大島郡龍郷町芦徳, 安木屋場, 龍郷	スキューバダイビング, シーカヤック, ウェイクボード, バナナボート, ドラゴンボート, ガイドツアー, 海水浴等
龍郷町各海岸	サーフィン他
大島郡龍郷町赤尾木, 芦徳, 龍郷, 大勝	スキューバダイビング
奄美市笠利町一円	ダイビング, ボードセーリング, 水上バイク, ジェットスキー等
大島郡喜界町一円	スキューバダイビング
大島郡徳之島町一円	体験ダイビング, スキューバダイビング, ダイビングスクール
大島郡天城町与名間	ローボート, カヌー, ヨット, マリンジェット
大島郡和泊町	スキューバダイビング, 体験ダイビング
大島郡与論町	マリンスポーツ全般
霧島市隼人町小浜	海水浴
大島郡天城町	スキューバダイビング, マリンジェット, ウェイクボード, バナナボート, カヌー, 手こぎボート

出典：鹿児島県ホームページよりとりまとめ

4 海岸漂着物等の現状及び海岸漂着物対策に係る課題

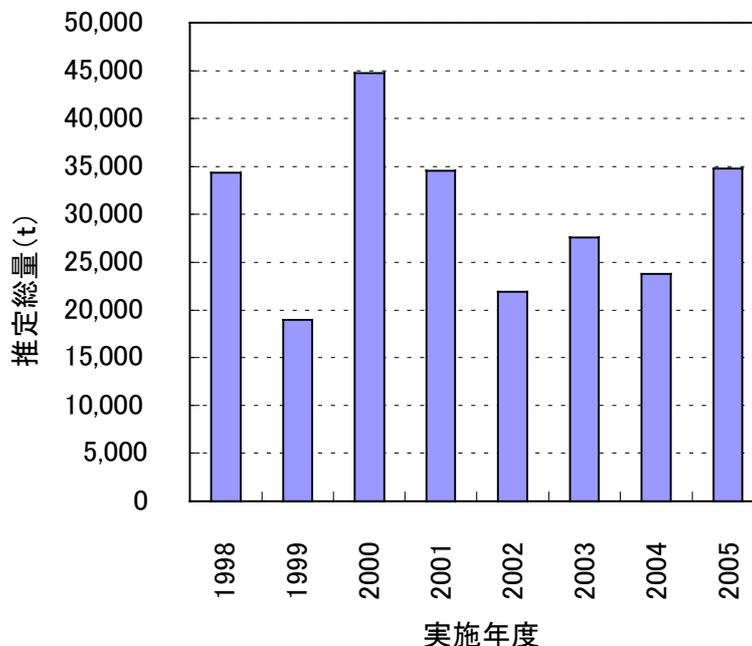
(1) 海岸漂着物等の現状

近年、海岸へごみが大量に漂着することによる被害が問題となっており、本県においても平成10年(1998年)8月に大量のごみが海岸に漂着している。その漂着範囲は薩摩半島を中心に北薩地方から薩摩半島西・南岸、大隅半島西岸及び種子島・屋久島西岸の23市町村におよび、海岸漂着物等の回収量は713tとなった。(出典:「1998年8月鹿児島県薩摩半島沿岸に漂着した大量ゴミの実態」1999年5月 藤枝)

現在においても、毎年「かごしまクリーンアップキャンペーン」や「錦江湾クリーンアップ作戦」などの清掃活動が市民ボランティアなどにより実施されているにもかかわらず大量のごみが海岸に漂着し続けている状況である。

全国における海岸漂着物等の推移については、J E A N / クリーンアップ全国事務局からの報告がある。ここでは「国際海岸クリーンアップ(International coastal cleanup)」の調査データを基に海岸漂着物等の推定総量を算定しており、その結果を図4-2に示す。報告によると1998年～2005年までの間、秋季の海岸には平均3万tの漂着があったと推定され、その量は1.9万t～4.5万tで推移しており増加や減少傾向は認められていない。また、(財)環日本海環境協力センター(N P E C)が2000年～2006年までの調査結果を基に推定したところによると、年間の海岸漂着物等の推定重量は約18.6万t(ただし、月結果を12倍(12か月分)したもの)であると推定している。

しかしながら、海岸に漂着するごみの量は、月変動が大きく、また移動も頻繁に起こるため、年に一度の調査結果からその総量を推定することは難しい。



出典:「日本における国際海岸クリーンアップ(ICC)の現状とその結果」(2007年 藤枝ら)
ICCデータカードの海岸長さとの回収重量のデータから、各会場における海岸延長距離10mあたりの回収重量を求め、その値を全国の総海岸延長(約35,000km)に引き延ばして全国の海岸に漂着散乱するごみの推定総量を求めたもの。

図 4-1 海岸漂着物等の推定総量の推移(1998年～2005年秋季)